

シベリア先住民諸語の記述的・類型論的研究

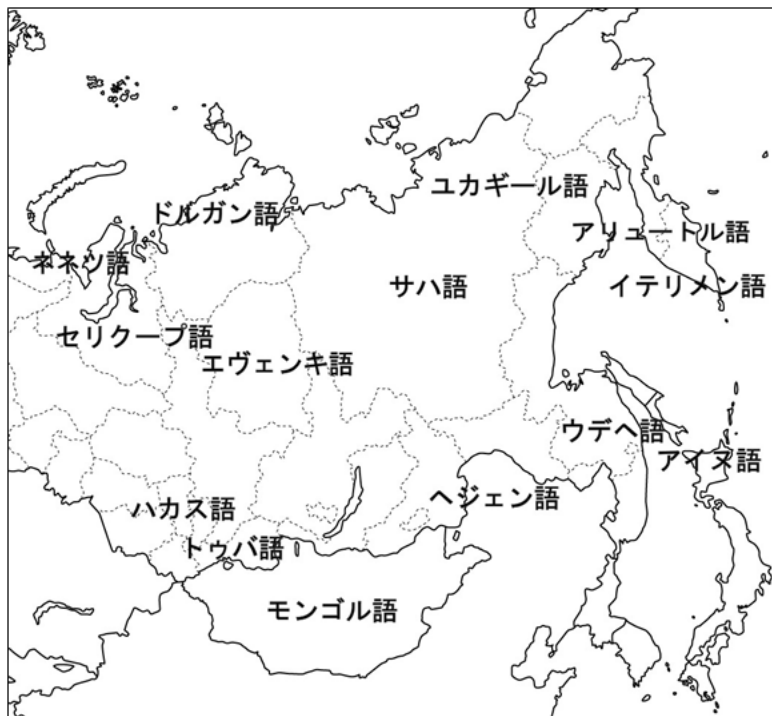
(令和7年度・活動実績報告)

■ プロジェクトの研究目的

日本の真北にあたるシベリア地域では、歴史的系統や類型学的特徴が大きく異なる多数の言語が話されています。その多くは、話し手の数が極めて少ない少数言語・危機言語です。これら小さな言語も、研究対象としては英語や中国語などの大言語と等しい価値を持っています。どの言語も独自の緻密な構造を備えており、さらには祖先の言語の状態を知るための手掛りを内包しているからです。

本研究プロジェクトは文献資料の乏しいシベリア先住民諸語を研究対象とし、歴史的変遷と言語類型論的特異性に焦点をあてます。シベリア地域における系統関係の異なる言語同士が相互接触を繰り返して現在の姿に至るまでの歴史的過程を解明し、国家語の影響や標準語成立による平準化の前の段階では現在よりも言語類型論的に際立った特異性を示す、という仮説を検証します。

本研究プロジェクトは、科学研究費（基盤研究A）「シベリア先住民諸語の総合的研究：文献以前の歴史的空白の解明と言語類型論への展開」（研究代表者：江畑冬生）・挑戦的研究（萌芽）「チュルク語の類似度測定：シベリアー中央アジアー中国の先端研究を融合する試み」と連携しています。



[地図] 研究対象とするシベリア先住民諸語の分布図

■ 令和7年度の主な学会発表と論文

Functions of Sakha (Yakut) and Tyvan Converbs: From the Perspective of the Classification of Converb.

『알타이학보』 (Altai Hakpo). vol.35, 179-195. (2025年6月)

Polyfunctionality of the Sakha (Yakut) Iterative: Participant-Plural and Semantic Extension “The 17th Seoul International Altaistic Conference” Seoul National University, Korea. (2025年7月)

「サハ語・トゥバ語・シオル語・アルタイ語・キルギス語の多回接辞の対照」 日本言語学会第 170 回大会ワークショップ「チュルク諸語における多回接辞と複数行為性」：明海大学（2025 年 6 月；アクマタリエワ・ジャクシルクとの共同発表）

Subclassification of Turkic and the Northeastern Group: A Group Sharing Common Grammatical Features or Classification as “Others”? “6th International Colloquium on Northern Languages and Cultures” 釧路 公立大学（2026 年 3 月）

■ 令和 7 年度のその他の研究成果・アウトリーチ活動

[国際研究会「東西裕固語の研究：最新の報告」](#)の共催（2025 年 6 月・NINNO 3 会議室）

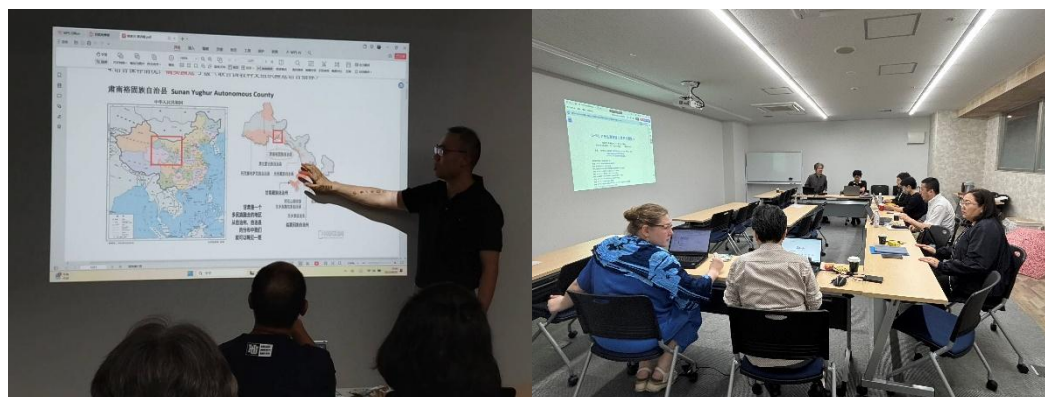
研究会「シベリア先住民諸語の歴史と類型 4」の共催（2025 年 6 月・NINNO 3 会議室）

[ワークショップ：「デジタル資源が蘇らせるユーラシア諸言語の姿 —19 世紀末から 20 世紀初頭の文献—」](#)の共催（2025 年 10 月・東京大学）

「シベリアの少数民族：サハとトゥバの言語と文化」 白根ロータリークラブにおける講演（2026 年 2 月）

6th International Colloquium on Northern Languages and Cultures の共催（2026 年 3 月・釧路公立大学）

「2025 年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会」の共催（2026 年 3 月・NINNO 3 会議室）



[東西裕固語の研究：最新の報告]

[シベリア先住民諸語の歴史と類型 4]

■ 令和 7 年度の出版物

『北東アジア諸言語の記述と対照 6』（2026 年 3 月）

■ 令和 8 年度の主な活動計画

日本言語学会第 172 回大会でのワークショップ企画（2026 年 6 月・桜美林大学）

『北東アジア諸言語の記述と対照 7』刊行（2027 年 3 月）

江畑 冬生（人文学部・教授）